

ふかまちのまど

第九十号 二〇〇一年十一月一日
発行元 深町 町内連合会
連絡所 四六三 一三八七

「のび太 ジャイアン症候群」が増えている

深小学校長 瀬畑 三代子

「学校って大好き、友達いっぱいいるし、給食は美味しいし」と、弾んだ声を聞くと嬉しくなります。

子ども達の輝く目や、ワクワクする心をくもらせたくないと、思いながら、これとは裏腹に、保護者や教職員の思いが子どもに伝わらない実態に、出くわします。

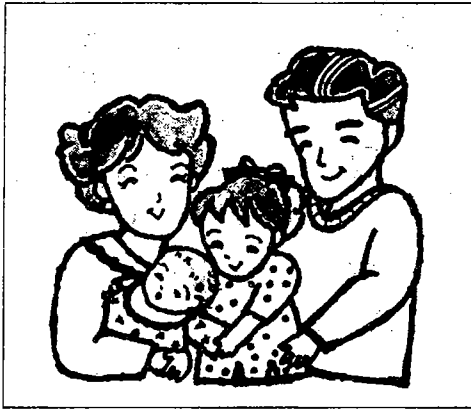
最近の顕著な例としては、「すぐカッとなる（キレル）」、「はぶてる（固まる）」、「泣く」、「すぐ人に頼る」ことで自己表現する等が挙げられます。おなじみのテレビ「ドラエもん」の「のび太君」や「ジャイアン」に見られる性格がそっくりなので、「のび太 ジャイアン症候群」と言われたりしています。

共通している事は、自分の思い通りにならないと「我慢できない」と言う事です。周りの人に迷惑を掛ける事など見えなくなってしまうのです。そこで、私なりに、実行しやすい二つの事について提案しようと思います。

その一つは、「家庭で子どもとのコミュニケーションの場を増やし、関りを多くしてほしい」と、いう事です。

子どもも大人も「忙しい忙しい。」と言ってイライラ、パタパタして過ごす事が多く、心が満たされていないような気がします。親は愛情をかけたつもり

でも、子どもの心の奥底まで伝わっていません。なかつたり、お金や物で愛情をすり変えたりしてはいないでしょうか。家庭の事情が異なるので、一律にはいかないと思いますが、もっと子どもに関る事がいえるように思います。



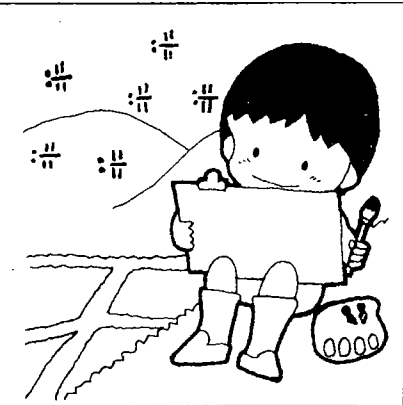
例えば、子どもが「ただいま」と帰った時、学校であった楽しい事、あるいは、反対に悲しくてくやしくてたまらなかつた事をたっぷり聞いています。ようか。子どもは思いを聞いてもらうだけで、うれしく落ち着くものです。

また、朝食や夕食はいっしょに食べて楽しいコミュニケーションの場になっているので、テレビを見ながらの食事は半減ですね。私は帰りが遅くなる事が多かったので、コミュニケーションの場として、娘と一緒に風呂に入りました。振り返ってみます

深小学校だより

校庭の銀杏も黄色く色づき、落ち葉を一年生や二年生の子どもたちが集めて遊んでいます。地域の皆様には、ますます清勝のこととお喜び申し上げます。いよいよ十二月。今年も残すところ一カ月となりました。なか、きざわしく感じます。

ところで、先月の十一月十七日地域参観日にはたくさんの方が学校においでくださり、ありがとうございました。六十名あまりの方が学校にきてくださり、職員一同子どもたちとともに喜びました。特に保護者の方と共に地域の方が、子どもたちの絵や習字、俳句など



間割を組むことはできませんが、地域の方のお力を借りながら、深小学校の特色を生かした開か

の作品をほめてくださったり、声をかけてくださったりと、とても励みになりました。今回は、今年より始めましたテーマタイムやパソコン、生活科の授業を見ていただきました。来年度から始まる新しい教育内容を作っていくために、地域の方のお力を貸していただき、スタートしたテーマタイムのようなど感をご意見をもちたれたいようか。

と、けっこう子どもとの心の通う場になっていったような気がします。また、低学年では、添い寝をしながらかの昔話や本の読み聞かせをされている家庭もあるでしょう。どんな声優の声より、お家の人の声が暖かく伝わり、心を育むものです。こういうコミュニケーションの場を通して、朝の登校の事が話題になったり、小さい子、弱い立場の人には、いたわる心が大切である事、友達をバカにしたり、悪口を言ったりする事は、人間として恥ずかしい事など、知らず知らずのうちに子どもに伝わり、優しい落ち着いた心に育っていくのではないのでしょうか。

二つ目の提案は、「家の仕事（手伝い）をさせる事」を提案します。小さい子は、親が手助けをし、四年生ぐらいからは、ある程度任せ、決まった仕事（手伝い）をやり切らせるという事です。仕事をやる事で、しんどい事をやり通す力や忍耐力、努力する事や工夫する力、そして、家庭を思いやる優しい心も育つように思います。深の子ども達の日記にも、以前は、田植えや稲刈りを手伝った物があつたようですが、今はもう機械化されて、それも見られなくなりました。

以上二つの事を提案しました。が、各家庭でできる事があれば参考にされ、体験をふやし、わが子の個性を見つけ、ほめ、自信をもたせる事を重ねていくのがいいと思います。

言い聞かせたり、教えたり、時には叱りながら、子どもが一人のひととして大事に育てられる時、自分の感情もある程度コントロールでき、「ジャイアン」のようにすぐ「キレ」たり、「のび太君」のように「ドラエもん」に頼るのではない子は、少なくなるのではないのでしょうか。愛情いっぱい育てられる子は、素直で優しい子どもにきっと成長すると思います。次回は「読書のススメ」について書きたいと思っています。

郷土誌発刊記念碑建つ

三原市合併五十周年を記念して発刊した新修深郷土誌の発刊記念碑が、十一月十八日、深町民会館敷地内にできました。尚、この石碑の据付けにつきまし、岡崎久志さんに大変お世話になりました。有難うございました。

深町町内会連合会 ▲▲

れた学校を目指していこうと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

深町各種団体三月行事予定

小学校(幼) 二日

学習発表会(小・幼) 四日

歯科検診 十三日

参観日 期末懇談会(幼稚園も) 十三日

城山のぼり 十五日

誕生会(幼) 二十日

終業式(小・幼) 二十一日

女性会

親睦会 上組 六日

中組 三日

下組 九日

如水館、アベック出場



全国高校駅伝競技大会県予選で、女子一時間一三分三二秒、男子二時間一〇分四三秒で、共に好タイムで優勝した。女子は四年連続四回目、男子は初出場で、師走の二三日(日)に都大路で行われる全国大会が楽しみ。初の栄冠を目指して、健闘を祈る。

展望席

十一月の中頃、車で走りながらNHKのラジオ放送を聞いていた。国会中継で、参議院予算委員会の質問があった。国民に代わっての質問なので、我々には手の届かぬ高次元の政策論争かと聞いていたら、以外と低い？ものがかなり長時間続けた。その中で「真紀が関心を寄せたのは『真紀ちゃん？』の『指輪紛失』に関する問答だ。『国会論戦』の中で、高価とはいえ、個人の指輪が無くなったことが話題になることへの不思議さ。無くなったら交番に届け、そちらで探してもらったらよからうに、と思うのは我々庶民だが、事実一般国民はこのルールで出てくれば喜ぶし、出なければあきらめれば一件落着。▼ところが国会質疑には次があった。『代わりの指輪を誰か買いに走らせたか』の質問に「秘書を」という答がでた。大臣という忙しな体だから「秘書」でよいのではないかと聞いていた。一般庶民は旦那の息子の下着は「秘書？」任せであり、事実私も四〇余年それを買ってきた。▼低レベルの質問は続く。『その代金は誰が支払ったのか』の問に答は「答えられない」の一点ばり。『私の金で私の物を買ったのに何でこの国会の場で答えなければならぬのか』、という答が当然出ると思っていたらそれが出ない。真紀ちゃんもあまりに低次元な質問に答えることが

深町歴史散策

(14)

地頭職石原氏と 聖光庵

高崎 壽郎

深の歴史に颯爽と登場するのは、地頭職石原氏である。深郷土誌（昭和38年発行）によると、「応安二年（二二六九）足利三代將軍義満公より、備後の国御調郡木頃庄地頭職に石原右衛門尉頼元が封ぜられ田屋城主となる。禄高一六〇九石也」記している。

過日、史料をたよりに三次市石原町を訪問し、当地の郷土史家に「石原氏は鎌倉の有力なご家であった山内首藤氏が、そのルーツであり備後国三鞆郡石原村を出自とし、在名を以て石原姓にした」ことを確認した。木頃庄とは、深・中野・本郷・木門田の四村が該当する。石原氏がどのようにこの地を治めたか記録がないが、まず無難に庄園経営をしたと考えられ、石原氏は、医王山田屋城（現在城山と呼称）の築城に合わせ



在りし日の聖光庵

て、一字を建立して善提寺とし、「医王山正光寺」と号した。曹洞宗のお寺だった。現在、正光寺跡（松秋誠治氏付近）には、当時の汲井戸が残っている。又、村上山の山裾には、苔むした宝篋印塔や五輪塔の古墓が数多くある。

いつの頃からか、石原氏は毛利氏と主従関係にあった。天下分け目の関ヶ原の合戦で西軍に味方して敗れた毛利氏は、周防・長門の二国に転封され、石原氏もこれに伴ったという。

中国・朝鮮航路の思い出 (3)

秋本 俊之

本船が渤海湾に入ると北支（北支那）の広大な平野が眼前に開けます。本船のデッキの上からその平野を白河が曲がりくねり乍ら海まで延びているのが見えま

それらを見乍らゆっくりと数十キロ遡ると北支有数の大都会の天津マトウと云う岸壁に接岸します。接岸後税関の検疫を終えると、各部署に於て予定されている作業員以外は開放されます。三々五々とグループをつくり乍らチョビ（人力車）たまりまで歩き街まで走らせませす。街を散歩していると、若い娘には居りませんが、中年以上の婦人に出会いますが、それらの中には非常に小さい子どもの足位（約一〇センチ位）でよちよちと痛々しそうな姿で歩いているのをよくみかけました。これが中国の古い習慣の名残りの「纏足」（てんそく）だと見かけた事でした。以下「纏足」は、国民百科辞

典を引用しました。

「纏足とは」中国婦人の人為的な方法で変形された足の奇形です。四〜五歳なつた女兒は両足を布で固く巻いて発育を止め、第一指を除く他の四指は足裏に曲げて、甲の高い小さな足としませした。その形から弓足、金蓮、春筍などの異名があります。靴を履いたその足が小さい程美人とされ、形により肥軟に依つて名称を定め、品位の上下をつけて観賞されました。この奇習がいつごろ発生した



のか明らかではありませんが、通説では五代後唐の李後主が宮女の足を布で巻いて新月状にさせたのが起源とされています。これが発生した原因として、漢代後期すでに男子が婦人の細腰纖手とともに、小足を愛好する風があったこと、また、婦人の経済的肉体的な自由行動を制限し、家庭に束縛しようとしたこと、更に纏足した小足と、そのために発達した腰部に微妙な性的魅力を感じたことなどがあげられています。元明、清代のうちでは明代に盛行し、特に華北に盛んでした。清末期から禁令が出され、いわゆる天足や放足の運動が起こって、纏足は次第に衰えまし

現在、一族の墓と居住したと思われる地名（土居）を残すのみで、石原氏と深を結ぶものはない。夏草や 兵どもが ゆめの跡 芭蕉

石原氏の善提寺であった医王山正光寺は、施主を失って荒廃した。里人はこれを惜しんで小庵を結び、本尊阿彌陀如来坐像を安置した。今の深町民会館のある場所「聖光庵」といった。聖光庵の創建は確かではないが、仏壇の位牌から、今から二百年前ごろ建立されたと考えられる。

文化四年（一八〇七）丁卯 当庵開基一寶榮心沙弥 正月十七日

明治二二年（一八八九）深田村が成立すると役場としても利用された。昭和二年（一九二七）中組公民館と兼用で新築された。昭和二十年（一九四五）集団疎開児童の宿舎として利用された。

町内会連合会活動報告

深町敬老会

十月二十八日（日）十一時〜十三時まで、深小学校屋内運動場に於て、市長（代理隣保館長）以下十二名の来賓の臨席の下に開催することが出来ました。

本年の招待者は、昭和二年以前誕生の方（七十四歳以上）で百十九人でしたが、出席者は三十六人でした。例年どおりに式典、祝宴、演芸（小学生・女性会・町内会・来賓・長寿者）を行いました。本年度は、新しい方針として、①出席者の疲れを少なくするため、従来の三時間を二時間に短縮する。②車椅子で入場出来る様に段差を無くする。③記念写真を撮影する。（撮影者西本一三）④出席者にも欠席者と同様に記念品を贈る等しました。その他、足の悪い人のため椅子席の増加、出席者が懇談し易い配席、年齢順の高齢者名簿の配布（高崎壽郎作成）を実施し、従来どおり希望者には送迎も行いました。

記念品のチャンチャンコは、林キヨコさんのお骨折りでメーカー直送のため、安価で入手することが出来ました。本年も女性会の全面的な協力を頂き、予定どおり実施することができましたことを感謝して居ります。今後も更に多くの長寿の方々に喜んで出席して頂ける様に努力いたします。最後に、ご臨席の来賓の方々から沢山のご祝儀を頂きましたことをご報告いたします。

戦後は、三原市へ合併後の昭和二六年（一九六〇）までは、三原市役所深町支所にもなった。昭和五八年（一九八三）深町公民館として竣工し、利用度は高い。尚、仏間のある町民会館は珍しい。

市制六十五周年式典で

平岡功一さん 高崎壽郎さん 市長より表彰状

深町町民として非常に名誉なことであり、町民一同喜び、又、その善行に感謝したいと思いま

この受賞は、次の善行が評価されたものと思われます。平岡功一氏は 深町町内会連合会の月刊機関紙「ふかまのまど」を平成四年発行より八年余り、中之町地区と深町に配布している月刊誌「ふれあいだより」を四年間の長きに亘り編集し、今も継続発行して頂いていま

高崎壽郎氏は 深町町内会連合会が、深町の三原市合併五十周年を記念して発行を計画しました「新修深郷土誌」の編集室長として鋭意尽力せられ、平成十二年八月に、昭和二十三年「深郷土誌」発行以来の立派な郷土誌を発刊して頂きました。（これを記念して先月十一月十八日に、町民会館横に「発刊記念碑」を建立しました。尚、平岡功一氏は、三原市社会福祉協議会からも「地域福祉活動功労者」として表彰されています。



茶の木

